



(一)横浜港湾福利厚生協会
シンボルマーク
(1977年11月制定)
福利厚生(welfare)の頭
文字Wをデザインしました

厚生ニュース

はまかぜ

2026年7月1日

第92号

一般社団法人 横浜港湾福利厚生協会

横浜市中区山下町277-1

☎045(681)6751

http://www.y-port-kousei.or.jp

発行責任者 小林 仁

編集責任者 岩崎 広幸

印刷所 神奈川新聞社

〈本紙は再生紙を利用しています〉

六月十七日

第七十二回 通常総会開催

二〇二六年六月十七日、横浜港運會館の大会議室において第七十二回通常総会を行いました。来賓として関東運輸局、横浜市の方々から祝辞をいただき、議事の審議に入りました。

議案として審議された二〇二五年度事業報告及び決算、公益目的支出計画実施報告書、二〇二六年度事業計画及び予算、役員選任の四点について、すべて原案どおり承認されました。昨年度は、横浜港で物流を守り働き続ける方々をサポートするため、食堂、給食(弁当)、売店、住宅、会議室等の管理運営など各種事業を進めてまいりました。

主な取り組みにつきましては次のとおりです。食料事業につきましては、ランチや麺類などのメニューの充実に注力しました。

また、給食事業につきましても、引き続き各店頭への確実な配達に努め、売店事業では、販売商品の充実を図るとともに、二月にポストア本牧A突堤中央通り店をオープンし現場のニーズに応えるよう努めました。



挨拶をする藤木会長

住宅事業につきましても、本牧ポストアイツの小世帯住宅の洋室化工事の継続と老朽化した受水槽を撤去し、直結給水工事を行い設備の改善に努めました。また、老朽化が著しい本牧単身者共同住宅を解体いたしました。

本年度につきましても横浜港の発展のため、横浜港で働く方々に安心して快適にご利用いただけるよう取り組んでまいります。



通常総会の様子

ではありませんが、役員交代がありました。

〈常任理事〉 大久保 忠行

奥田 貴正

坂手 紀之

高畑 誠人

桜見

〈理事〉

高畑 誠人

桜見

役員名簿 (敬称略)

役職	氏名
会長	藤木 幸太
副会長	藤木 幸三 飯泉 勝也 田留 晏
専務理事	小林 仁
常務理事	岩崎 広幸
常任理事(以下50音順)	飯塚 利信 上中 康司 大久保 忠行 奥田 貴正 串田 素宏 坂手 紀之 笹田 照近 新保 康裕 徳橋 三郎 中村 直樹 原田 龍次郎 日高 努 藤木 幸吉 堀内 秀紀 山下 晃
理事	荒井 一美 石川 敬一郎 俣山 誠人 酒井 裕介 坂田 薫 佐藤 彰 高畑 桜児 富田 和孝 中山 博達 森 健二 渡邊 直人
監事	飯島 雄一郎 井上 敦 田中 由香志

2026年度予算のあらまし (単位:万円)

科目	決算額
事業活動収入	
会費収入	1,312
港湾福利分担金収入	24,000
施設整備助成金収入	12,400
事業収入	158,458
雑収入	6,007
事業活動収入計	202,177
事業活動支出	
事業費支出	181,355
管理費支出	5,809
事業活動支出計	187,164
事業活動収支差額	15,013
投資活動収入	
投資活動収入計	
投資活動支出	
固定資産取得支出	11,602
投資活動支出計	11,602
投資活動収支差額	△11,602
固定資産関係	
固定資産関係差引後収支差額	3,411
投資活動収支の部	
投資活動収入	
特定預金取崩収入	
コンビニ保証金取崩収入	
投資活動収入計	0
投資活動支出	
受入保証金支出	30
コンビニ保証金支出	1,514
退職積立預金支出	120
住宅整備等特定預金支出	120
投資活動支出計	1,664
投資活動収支差額	△1,664
特定預金関係差引後収支差額	3,291
予備費	300
当期収支差額	2,991
前期繰越収支差額	62,470
次期繰越収支差額	65,461

2025年度決算のあらまし (単位:万円)

科目	決算額
事業活動収入	
会費収入	1,327
港湾福利分担金収入	23,129
施設整備助成金収入	11,021
事業収入	149,530
雑収入	7,403
事業活動収入計	192,410
事業活動支出	
事業費支出	191,573
管理費支出	7,288
事業活動支出計	198,861
事業活動収支差額	△6,451
投資活動収入	
投資活動収入計	25,053
投資活動支出	
固定資産取得支出	15,665
投資活動支出計	15,665
投資活動収支差額	9,388
固定資産関係	
固定資産関係差引後収支差額	2,937
投資活動収支の部	
投資活動収入	
特定預金取崩収入	
コンビニ保証金取崩収入	
投資活動収入計	0
投資活動支出	
受入保証金支出	30
コンビニ保証金支出	1,514
退職積立預金支出	120
住宅整備等特定預金支出	120
投資活動支出計	1,664
投資活動収支差額	△1,664
特定預金関係差引後収支差額	1,273
予備費	
当期収支差額	1,273
前期繰越収支差額	61,197
次期繰越収支差額	62,470



店舗入口

二〇二六年二月五日に、本牧ふ頭A突堤にコンビニ型店舗「ポストア本牧A突堤中央通り店」をオープンいたしました。オープンから五ヶ月が経ち、A突堤で働く方々や、トラックドライバーの方々など、徐々に利用者が増えてきています。店舗は、横浜港の新たなロジスティクス拠点である本牧ふ頭A突堤の中ほど、本牧ふ頭A突堤中央バス停の向かいに立地しております。

コンビニエンスストアで一般的に取り扱う食品や飲料、たばこなどのほか、作業現場で必要とされる手袋や作業靴、肌着なども展開しております。夏季期間は、アイスクリームや冷凍ペット飲料各種を充実するなど、お客様のニーズに沿った商品を順次、品揃えしてまいります。

また、店内には、カウンター席およびテーブル席あわせて三十六席を備えたイトインスペースがあります。お一人での利用はもちろ

その他、トイレ、ATMも設置しております。出社前にコーヒーを一杯、バスの到着時間までちよっと休憩など、気軽にお立ち寄りください。駐車場は、混雑時にも対応できるように、普通自動車十七台分、大型のトラックも駐車可能な大型車用は三台分ご用意しております。皆さまの来店を心よりお待ちしております。



36席のイトインスペース

ポストア本牧A突堤 中央通り店のご案内



二〇二六年二月五日に、本牧ふ頭A突堤にコンビニ型店舗「ポストア本牧A突堤中央通り店」をオープンいたしました。オープンから五ヶ月が経ち、A突堤で働く方々や、トラックドライバーの方々など、徐々に利用者が増えてきています。店舗は、横浜港の新たなロジスティクス拠点である本牧ふ頭A突堤の中ほど、本牧ふ頭A突堤中央バス停の向かいに立地しております。



ポストア本牧A突堤中央通り店
7時~19時営業 土・日・祝日 休

営業時間：平日7:00~19:00
休日：土日祝日、年末年始
http://jigyoku.jp/store/portstop.html

横浜港港湾労働者供養祭

六月二日 象の鼻パークにて開催

二〇二六年六月二日(火)に、象の鼻パーク内にある「横浜港港湾労働者供養塔」前を会場として、当協会と横浜港運協会の共催により、横浜港港湾労働者供養祭を執り行いました。

「横浜港港湾労働者供養塔」は、一九七四年に神奈川県・横浜市・港湾業界・当協会により山下ふ頭に建立され、ミナトでの仕事に生涯を捧げ、横浜港発展のために尽くされた方々の御霊を慰めるために、霊前祭を毎年春に執り行っております。

横浜開港一五〇周年を迎えた二〇〇九年には、「横浜港港湾労働者供養塔」は横浜港発祥の地である象の鼻パークへ移設され、現在に至っております。

移設された後は、毎年、横浜開港記念日がある六月に、横浜港港湾労働者供養祭として執り行われ、多くの方々に供養塔に献花をいただいております。



藤木会長による挨拶



参加者の献花の様子

今年の供養祭は台風接近の報がある中ではございましたが、幸いにも雨に見舞われることなく開催することができ、官公庁、港湾関係者、三五〇名の方々に参加していただきました。

当日は午前十一時に開式し、黙祷から始まり、藤木会長が挨拶を述べた後、感謝と敬意を込め供養塔に花環を捧げました。続いて参加者の皆様から献花をし、横浜港の発展に寄与された方々のご冥福をお祈りすると共に、これからの横浜港の更なる発展と安全を祈念いたしました。

はまかせ 診療所

第83回 「麻疹」について

本牧港湾診療所 内藤 広太郎先生

麻疹患者数は、二〇一九年までは全国で年間数百例程度の報告がありました。二〇二〇年、二〇二二年はコロナ禍の渡航制限の影響でわずかに六〜一〇例程度と激減しました。

本牧ポートハイツ

十六号棟洋室のご案内

本牧ポートハイツ小世帯用住宅の洋室化につきましては、今年度も十六号棟において十四室の改修工事を実施しております。これまで同棟では計五十六室の洋室化住宅を提供し、おかげさまで会員企業の皆様より好評をいただいております。現在、工事を行っているお部屋

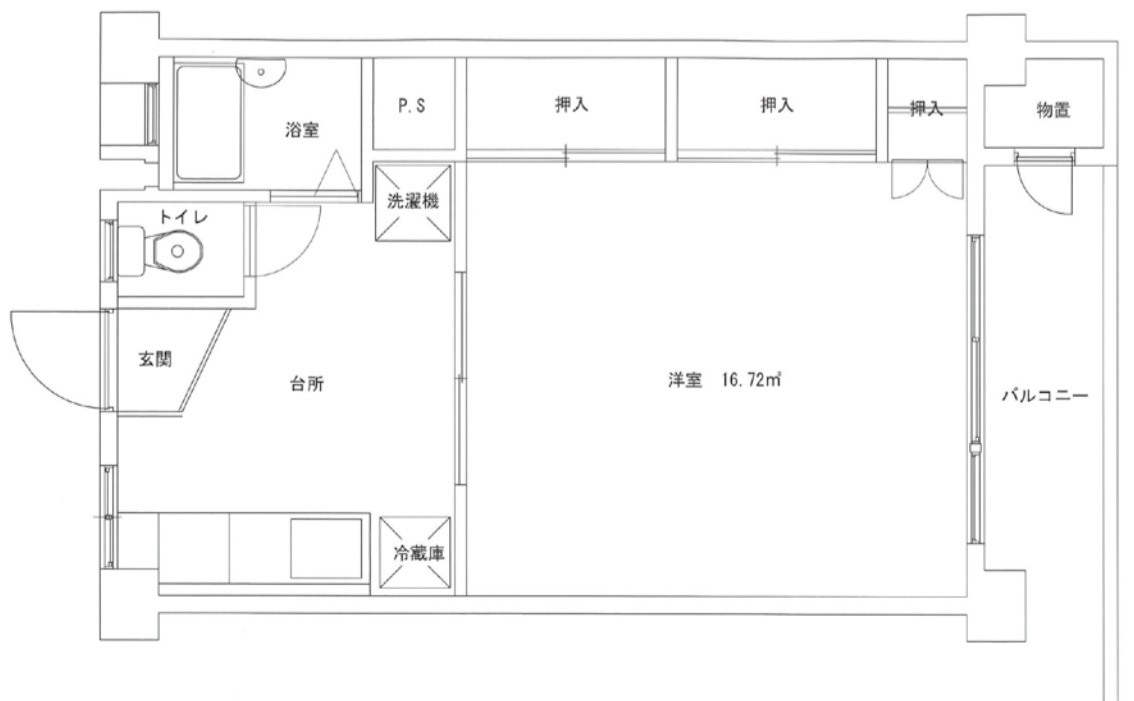


洋室化したリビング



リニューアルしたキッチン

屋の入居開始時期は、二〇二六年十月頃を予定しております。また、入居募集時期は、当協会ホームページにてご案内いたします。
【ホームページアドレス】
<http://y-port-kousei.or.jp/kanri/kanri.html>



16号棟洋室間取り

しかしながら、二〇二三年以降再び増加傾向となり、二〇二五年は二百四十五例の報告があり、二〇二六年も五月初めまでにすでに全国で四〇〇例を超える報告があります。

麻疹は子供の病気というイメージがあるかもしれませんが、今年度の流行の特徴は十五〜四十九歳という活動世代が八割以上を占めているということです。背景には、新型コロナウイルス流行中に各国で定期予防接種が停滞したことによる世界的な麻疹流行

行があります。海外からの渡航者増加に伴い、日本でも感染拡大が続いています。麻疹は麻疹ウイルスによる感染症で、非常に感染力が強く、抗体がない人が感染するとほぼ確実に発症します。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、麻疹患者と同じ空間にいただけで感染します。一方で、一度かかった人、および、二回の予防接種により十分な免疫をもっている人は発症や重症化のリスクが低くなります。

水など風邪のような症状が現れ、二〜三日後にいったん解熱した後、三十九度以上の高熱と全身に赤い発疹がでます。症状が出現する一日前から解熱後三日くらいまで周りの人に感染させる力があります。合併症として肺炎や中耳炎、脳炎などがあり、先進国でも一〇〇〇人に一人程度死亡するとされています。もし麻疹を疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡してから指示に従って受診してください。周囲へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用は避けましょう。

残念ながら麻疹に特異的な治療法はなく、対症療法(症状を和らげる治療)となります。一方でワクチン接種による予防が効果的です。現在、日本では、幼少期に麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)を二回接種しています。ただ、二〇〇〇年以前に生まれた方はワクチン接種を受けていない、もしくは一回のみだった可能性が高く、免疫が不十分でリスクが高いと考えられます。ワクチン接種歴が不明な方は、抗体価の検査やワクチン接種を検討して、皆で力を合わせて集団免疫を高めましょう。